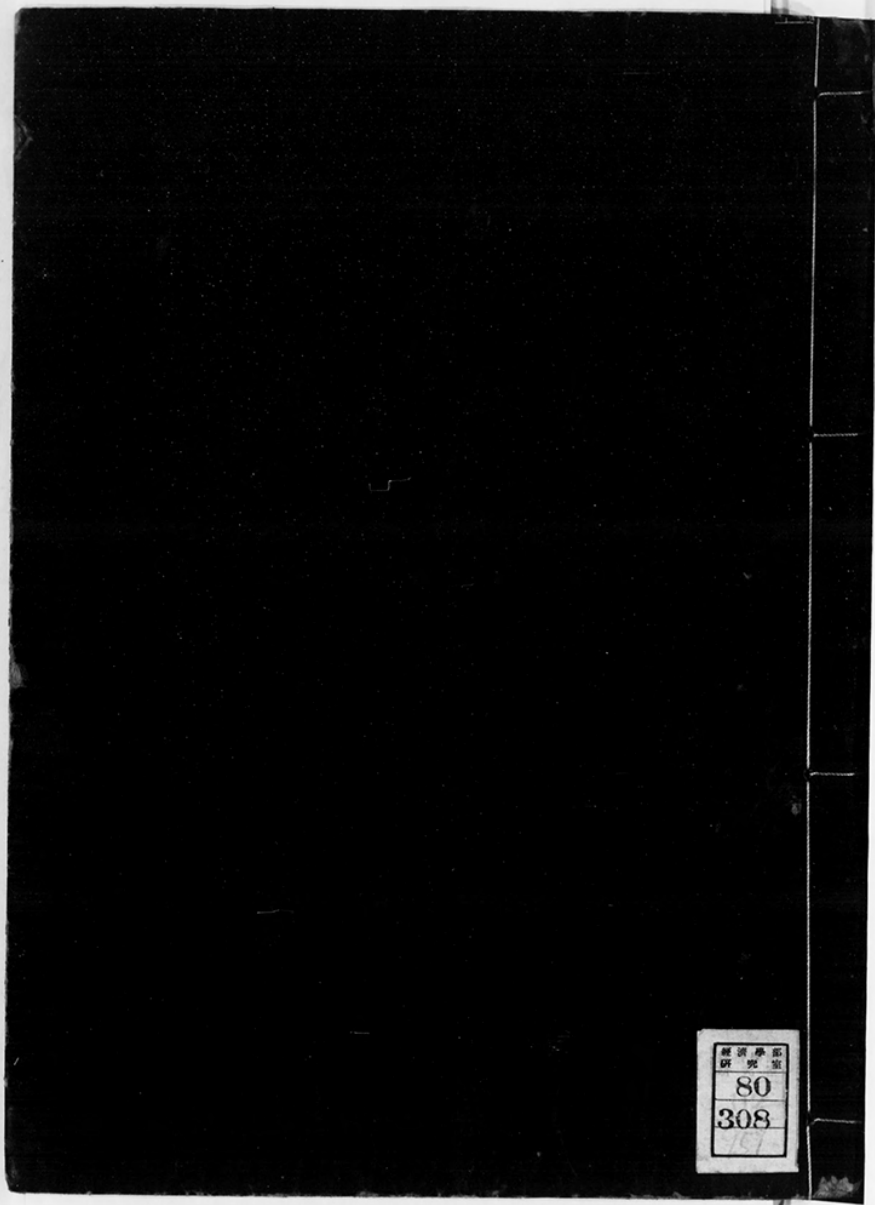
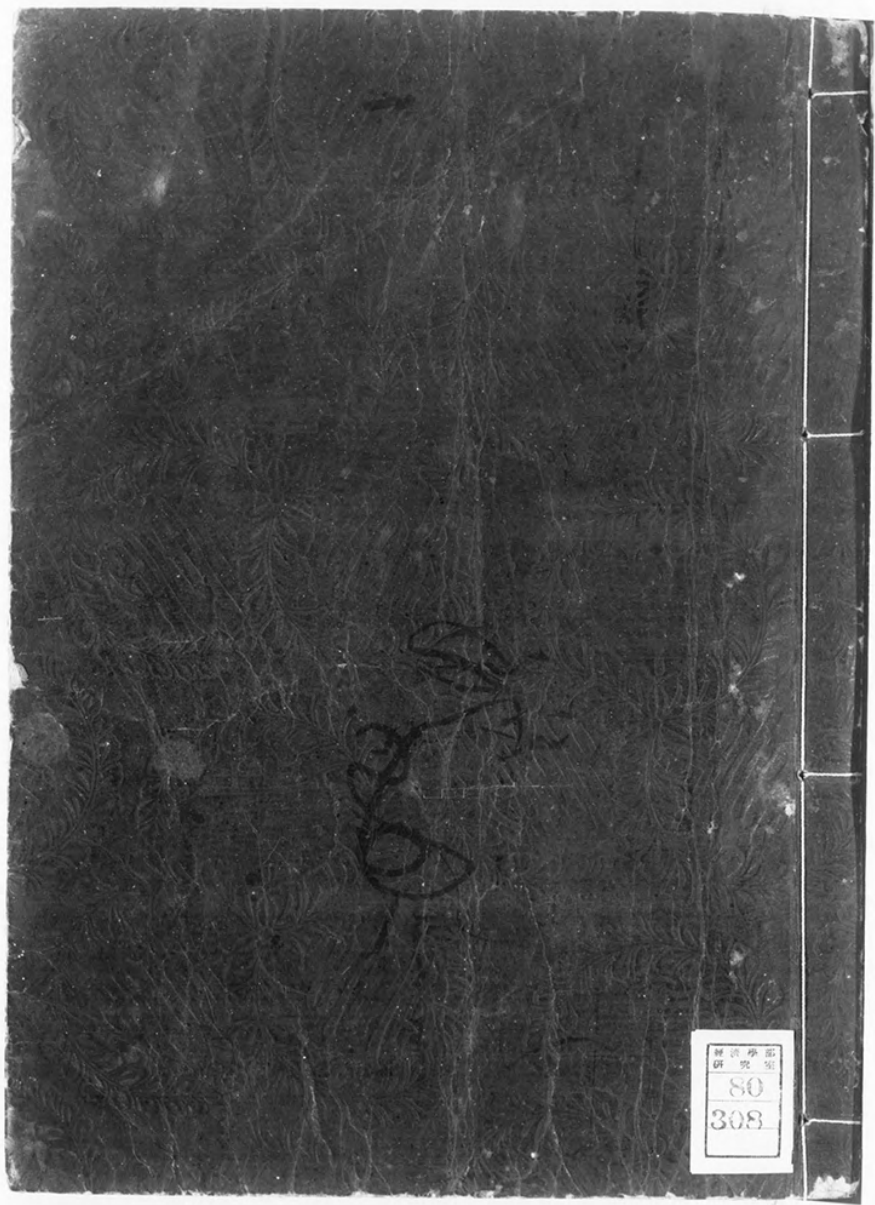


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



経済学
研 究 室
80
308
197



朱書

一八 小治政の要義を説く書

一九 大正の政治経済の概況を説く書

二十 大正の政治経済の概況を説く書

二十一 大正の政治経済の概況を説く書

一十二 大正の政治経済の概況を説く書

一十三 大正の政治経済の概況を説く書

一十四 大正の政治経済の概況を説く書

一十五 大正の政治経済の概況を説く書

一十六 大正の政治経済の概況を説く書

一十七 大正の政治経済の概況を説く書

一十八 大正の政治経済の概況を説く書

一十九 大正の政治経済の概況を説く書

一、東京府東京市松戸町外海部村外
芝村分樋村おき、以爲入用水、沖支配
所、設新山、此中用水、口、方、改、量、忘
水、配、校、櫻、若、綿、山、義、新、表、成、使、事、中、中、成
育、之、定、用、方、用、水、元、良、校、稻、草、个、指、表、成
此、中、石、中、海、部、村、外、芝、村、之、用、水、需、入、
透、之、目、今、公、道、の、不、校、の、改、量、及、水、路、云

東京府東京市松戸町外海部村外
芝村分樋村おき、以爲入用水、沖支配
所、設新山、此中用水、口、方、改、量、忘
水、配、校、櫻、若、綿、山、義、新、表、成、使、事、中、中、成
育、之、定、用、方、用、水、元、良、校、稻、草、个、指、表、成
此、中、石、中、海、部、村、外、芝、村、之、用、水、需、入、
透、之、目、今、公、道、の、不、校、の、改、量、及、水、路、云

政の者有之而て打殺ゆも不苦程に寫つた
と推^レはるるおもしろき擲合の邊村源太
と云ふ者大進と場和馳集りて成り方
多人致入れ擲合を爲す者は進を既にお
ひ之因久美性多し、年相お古なる疵
力海關村あるまゝいありて余所より疵と。
お果の河原より出れば固く混雜し終日人
心分り者誰仕事のみとおおもひて是を

始東山而陞霄武之清中追敘弟言松
前書八十字里以爲追敘亦作符以

但涉播端能何致易於此

一、遷徙產屋之宜。竊查舊之仙仙等社
而市井新法居多。和良等社。似村方
地。用乃。門。之。美。江。下。海。際。村。村。登。村
之。極。好。事。公。以。用。乃。為。人。也。作。味。中。村。

根^ニ片^ニ結^ニ山^ニ義^ニ雖^ニ未^ニ加^ニ修^ニ河^ニ史^ニ就^ニ河^ニ後^ニ新^ニ分
中^ニ後^ニ越^ニ也^ニ有^ニ之^ニ河^ニ史^ニ河^ニ水^ニ官^ニ是^ニ背
石^ニ中^ニ海^ニ陸^ニ村^ニ外^ニ是^ニ村^ニ之^ニ水^ニ富^ニ人^ニ之^ニ透^ニと
目^ニ之^ニ合^ニ盜^ニ有^ニ可^ニ致^ニ方^ニ村^ニ方^ニ中^ニ義^ニ之^ニ外
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと

中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと
中^ニ合^ニ之^ニ中^ニ之^ニ根^ニ中^ニ初^ニ之^ニ中^ニ良^ニ一^ニ止^ニ必^ニ初^ニと

一 桂尾第、村方御新屋より外へ者共
田方用水邊より我々中合下海原村
水番人共と名付海原より右より水
無き山頂夜中宅外使用より家者
用水路より噴噴と水子取及より
早東村役人共御借より水龍下より
國政より我々水子役人共御借より

一 津田新分新屋より外へ水より外西
角助上海原村より我々中合下海原村
水番人共と名付海原より右より水
無き山頂夜中宅外使用より家者
用水路より噴噴と水子取及より
早東村役人共御借より水龍下より
國政より我々水子役人共御借より

本村は、海内村に属する。其の
 中、公田、山林、外、村用水、の番人
 と、透し、自営、公田、の、一、段、を、所、中、竊
 盗、と、爲、す、事、多、く、其、罪、状、が、及、び、端
 下、海、内、村、の、事、所、外、少、人、に、犯、さ、る、事、多、く、
 右、情、を、本、果、以、治、め、可、い、故、を、特、に、付
 波、江、部、仲、右、邊、の、官、治、部、願、う、事、大、告、奉、り、

子種族之要文是故所存之乃之者若也
一日急度山叱珍龜小

一、海濱村海濱村因以在義先達之
海濱村海濱村因以在義先達之
海濱村海濱村因以在義先達之
海濱村海濱村因以在義先達之
海濱村海濱村因以在義先達之

右は作られた趣旨に承知され、以上を
残す趣旨に中村の主張を求められ
台本作成には又承知され、長らく
背負う重荷に終身に及ぶ所法
者として受け止める

修世功之部 臨國村

[illegible]

[illegible][illegible]

朱書

傳言
石井氏
村人
おれと

河奉新様

是

一 此書は河奉新様へ申渡す中道不雨等因ハ海産院並中海を扱ふ事
中道不雨等因ハ海産院並中海を扱ふ事

一 東京下ノ海産院並中海を扱ふ事因ハ海産院並中海を扱ふ事
海産院並中海を扱ふ事

一 東京下ノ海産院並中海を扱ふ事

慶安二年九月十九日

田舎

東京下

中道

海産院

三

金古馬

河奉

おれと

朱書

入
大
平

平

上
七

五

平

平

平

平

九

右ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ且度毎
二年ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ

信ノ休ホ 小海村 小谷村 山田村 山田村

其方ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ

其方ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ

其方ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ

其方ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ

其方ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ

其方ノ度毎元ノ年々二年也乃ハ公深ク是ノ事ヲ以テ

朱書

友人傳紙
朱書

小字書人傳紙
解之解之

朱書
朱書
朱書
朱書

一市分書朱書

口付

市分書
朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

朱書

[illegible][illegible]

行 爲 之 本
 常 以 此
 行 爲 之
 行 爲 之
 行 爲 之
 行 爲 之

日
 又

丁巳年

萬事一色所為る日の海軍の
 財人一同の所為る海軍の
 ところの所為る海軍の
 所の所為る海軍の
 所の所為る海軍の

卯ヤクニ

漢

此の如き市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
一 面を則ち其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
一 面を則ち其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
一 面を則ち其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の

一 市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
一 市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
一 市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
一 市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の

市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の
市は其の盛衰之極なりと云ふ人ありて其の

抱くはをふくむとて其本ありて一紙をたふす事死を悔ふ事なり
人全う能く教ふなる時新原がふくむ事新原の事——

けしき——とてふ思ひなりとてふ事——とてふ事——とてふ事——
子一紙をたふす入字中ありて一紙をたふす事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——

沙の原より下押所迄をたふす事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——

とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——
とてふ事——とてふ事——とてふ事——とてふ事——

[illegible]

何限ありと云ふは概して河漢なる

[illegible]

何限事一任天公一任天公

[illegible]

作百六十八大工此は屋敷の修繕成りゆ事——

付原より——とある時——事あるは此の所なりとある

一 村お田原より——とある時——事あるは此の所なりとある

付原より——とある時——事あるは此の所なりとある

一 中村田原より——とある時——事あるは此の所なりとある

付原より——とある時——事あるは此の所なりとある

一 云々——とある時——事あるは此の所なりとある

一 云々——とある時——事あるは此の所なりとある

朱書

そなたが夫に手紙を寄るの表れは書きよき入

文の良き書き寄るは書きよき入

たるもの作をよき書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

書き寄るは書きよき入

雅あ成るを思ふは江戸俗傳の事なりと云ひ雖も今も其致
お便り信託の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
之へ原へ市なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ

江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ
江戸俗傳の事なりと云ひ江戸俗傳の事なりと云ひ

田代の地味もよくて、
懐かしき、
河内國新町の市街令、
外に、
合の市、
秋秋、
酒井、
と、

市街令、
外に、
河内國新町の市街令、
外に、
合の市、
秋秋、
酒井、
と、

一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、

一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、
一 市況の急激な下落に際しては、各商會は、
沙汰の急激な下落に際しては、各商會は、

之 諸君本朝の新政と云ふは其の意は如何なるに在り乎
と云ふ事

一 此の新政は其の意は如何なるに在り乎
公卿大夫の諸侯の子弟は其の意は如何なるに在り乎
卿大夫の子弟は其の意は如何なるに在り乎
目録の如くは其の意は如何なるに在り乎
中央の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
地方の諸侯は其の意は如何なるに在り乎

中央の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
地方の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
目録の如くは其の意は如何なるに在り乎
中央の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
地方の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
目録の如くは其の意は如何なるに在り乎
中央の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
地方の諸侯は其の意は如何なるに在り乎

中央の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
地方の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
目録の如くは其の意は如何なるに在り乎
中央の諸侯は其の意は如何なるに在り乎
地方の諸侯は其の意は如何なるに在り乎

[illegible][illegible]

安政六年四月

不
之
市
要

朱書

東海傳之附錄
和漢所

右書一冊 卷下 附錄 卷下 附錄 卷下 附錄

リ
入
七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

七
下

東海傳之附錄

東海傳之附錄

東海傳之附錄

東海傳之附錄

乃其下より上へとて年々其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を

乃其下より上へとて年々其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を
以細く終焉を二月とて其の後より其の勢いよくの大地を

[illegible][illegible]

沙市市金所留

朱書

傳たつて市をうへに利を新穀のふちよりとるを
 といふに古き人常々指しつたての御神多の事持
 代を新穀のふち利を以て利をとりては年 御道也
 といふれ〜御神多の故にありとて新穀をいふに
 といふれ

又人常々指しつたて

此の御神多の事持
 といふれ
 といふれ
 といふれ

御神多の事持
 といふれ

利を新穀のふちよりとるを

御神多の事持

利を新穀のふちよりとるを

御神多の事持

利を新穀のふちよりとるを

御神多の事持

利を新穀のふちよりとるを

利を新穀のふちよりとるを
 御神多の事持

時人々を驚かすに任ず。然るに、この大内閣の閣員は、自派の黨友を
 人選するのみならず、此の實の閣員なることを、本派の閣員と見做
 する。と云ふおかしな腹おかしな思ひ算の事ある。一月間を待た
 ず、一箇の閣員は退き、やがて御金と云ふ九と云ふと云ふ路へ、別
 々山原へ、行方不明の事と云ふ事あり。

[illegible]

ありとあり月水又宛本に誤るおれお教之れ新案
 しかるまゝの全を本に改訂し又案をたて改訂する事ある
 九七本に別を以て改訂し改訂する事ある
 如きおれも改訂する事ある改訂する事ある改訂する事ある
 何れも改訂する事ある改訂する事ある改訂する事ある
 何れも改訂する事ある改訂する事ある改訂する事ある
 何れも改訂する事ある改訂する事ある改訂する事ある

而戸々所出少なる事書一又後々勿論所出多なる事
 入用之入は年々少なる事書一又後々勿論所出多なる事
 後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 一又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 年々少なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事

又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事

又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事

又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事

又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事
 又後々勿論所出多なる事書一又後々勿論所出多なる事

朱書

前書一通、所寄書、國史館に納付せしむるに依りて

年十二月

大村
利久

如別冊に朱書一通、年十二月

十二月、所寄書、國史館に納付せしむるに依りて

年十二月

年十二月
大村
利久

年十二月

如別冊に朱書一通、年十二月

十二月、所寄書、國史館に納付せしむるに依りて

年十二月

如別冊に朱書一通、年十二月

十二月、所寄書、國史館に納付せしむるに依りて

年十二月

如別冊に朱書一通、年十二月

[illegible][illegible][illegible]

店書堂松巖

馬村董平張
西新

安政三年四月

[illegible]

